



『恵み野中央公園を考える会』

第1回恵み野中央公園ワークショップ

「公園の現状の課題や問題点を共有しよう！」

『恵み野中央公園を考える会』開催の目的

- ①公園供用後約40年が経過し、施設の老朽化が進む中で周辺環境の変化にも対応した公園機能の見直しが必要。
- ②施設改修を機に、さまざまな立場で活動をされている方々が集まり、本公園の魅力を再認識するとともに、これからの恵み野中央公園のあり方(施設改修内容や地域の方々の公園への携わり方など)を話し合い、共有していくことを目的とします。

(公園施設改修) C・H・A・N・G・E

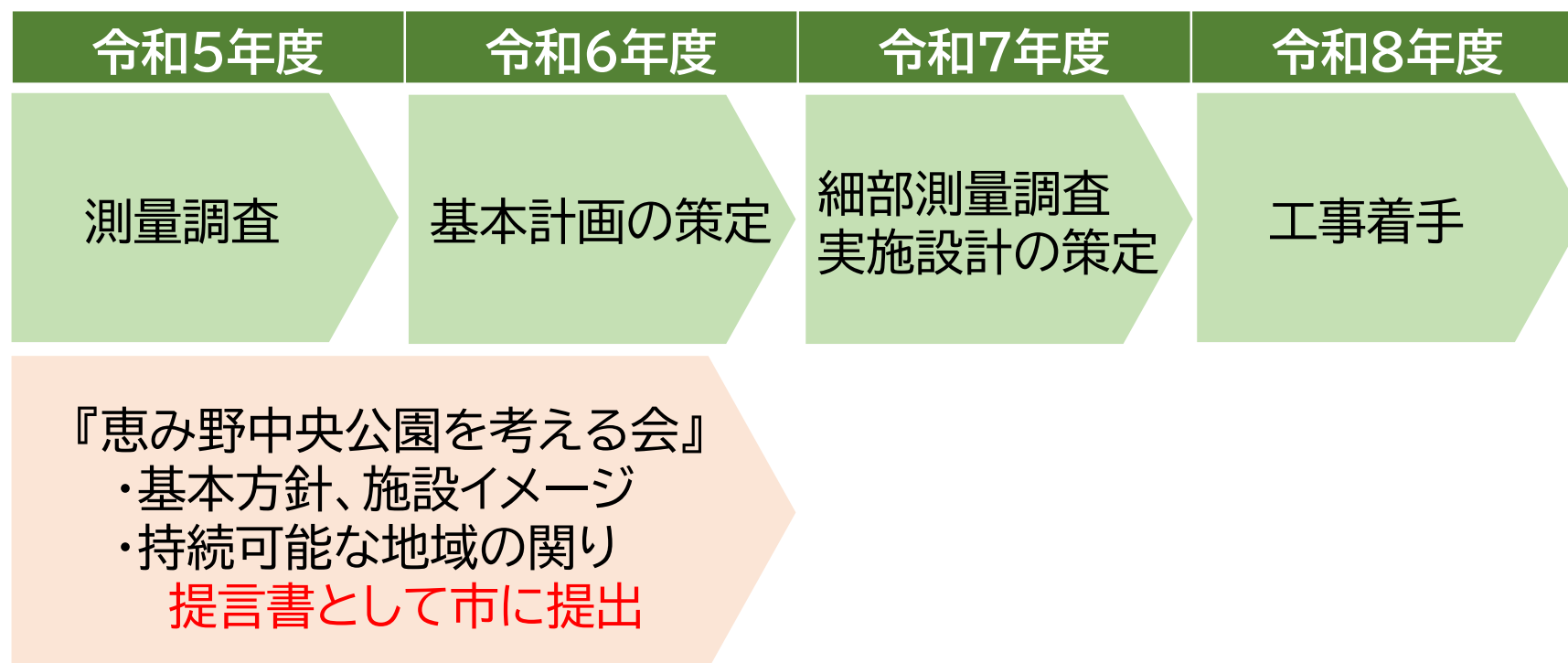
(より良い公園へ) C・H・A・N・C・E

改修範囲

- 概ね赤枠で囲った範囲は、機能の見直しを含めて、面としての再整備を予定
- その他の範囲については、老朽化の状況にあわせて適宜更新



恵み野中央公園 事業スケジュール



ワークショップ全体の流れ

令和5年度	第1回 ワークショップ	<ul style="list-style-type: none">・事業概要、ワークショップ目的の把握・現状の問題点や課題点の共有
	第2回 ワークショップ (12月上旬頃)	<ul style="list-style-type: none">・改修に向けた基本的な考え方の共有・エリアごとの空間イメージのアイデア出し①
	第3回 ワークショップ (2月上旬頃)	<ul style="list-style-type: none">・改修に向けた基本的な考え方の共有・エリアごとの空間イメージのアイデア出し②
令和6年度	第4～6回 ワークショップ (5月～9月)	<ul style="list-style-type: none">・エリアごとの具体的な施設・植栽方針・持続可能な公園づくりに向けた地域の携わり方 <p>提言書としてとりまとめる</p>

本日のワークショップの流れ

自己紹介

恵み野中央公園への思いを兼ねて！

公園概要・事例紹介

恵み野中央公園整備当時のコンセプトなど
公園再整備でのキーワード及び取組み事例

現地確認

現状の施設状況や樹木の状況を確認
公園内の良いところについてもチェック

現地確認の整理

現地確認で気づいた点をポストイットに記入
各自発表しながらグルーピング作業

グループ発表

グループでまとめた内容を発表！

本日のまとめ

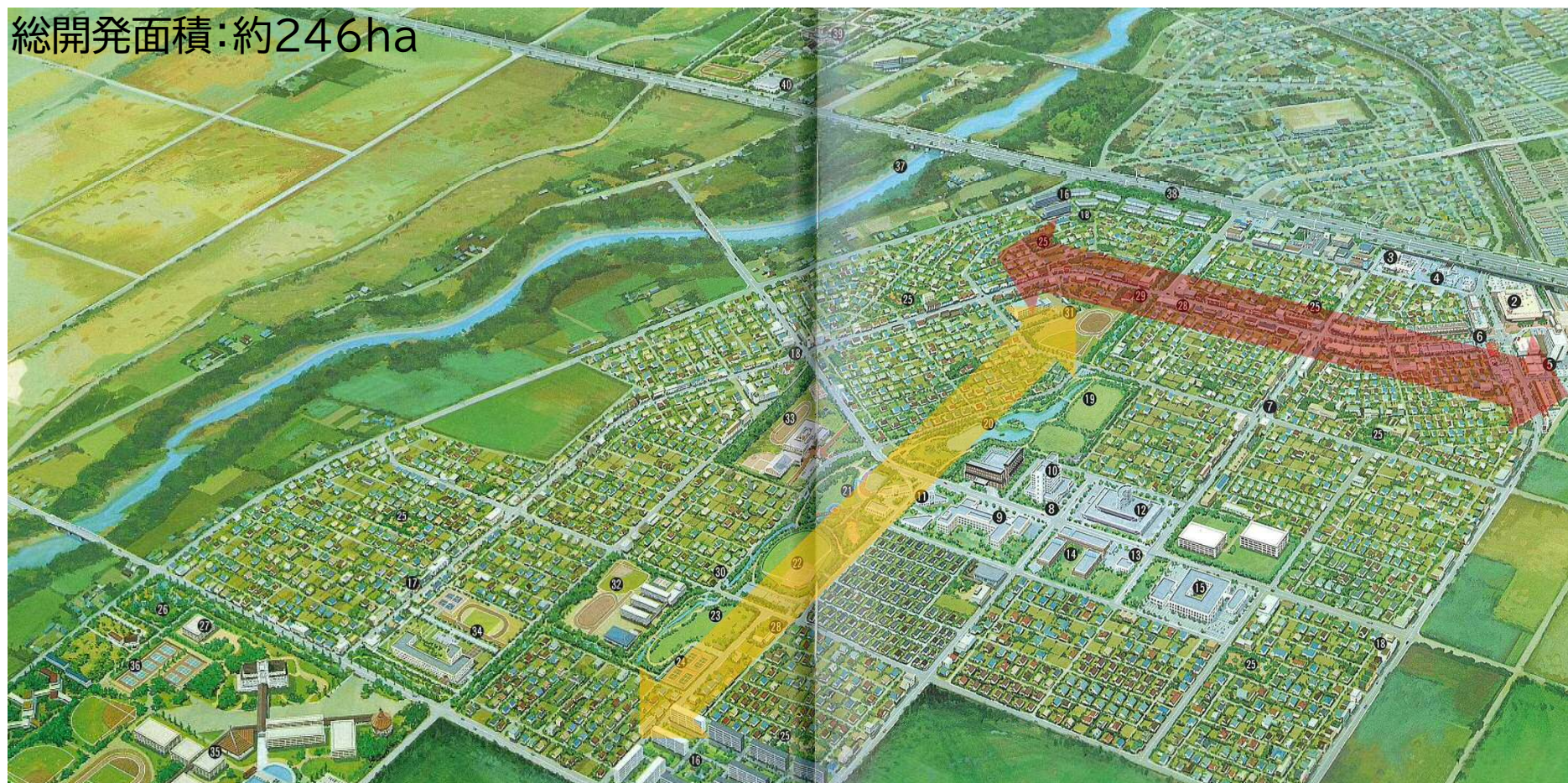
グループ発表で挙げられた内容のまとめ

恵み野中央公園の概要

←→ 地区の生活軸(ライフベルト) JR恵み野駅・商業・医療・公共施設

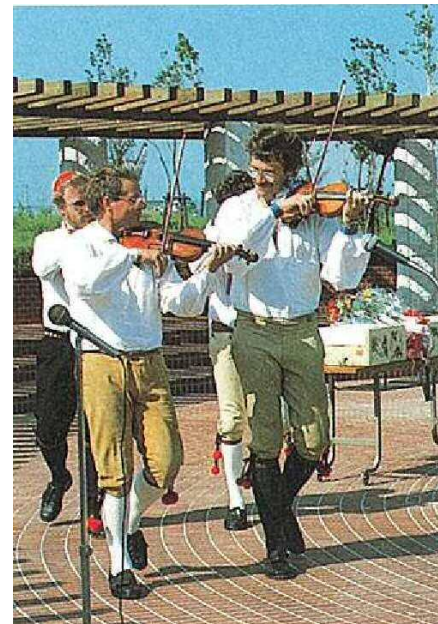
←→ 地区の環境軸(パークベルト) 恵み野中央公園(面積11.1ha・総合公園)

総開発面積:約246ha



開発当時の完成予想図

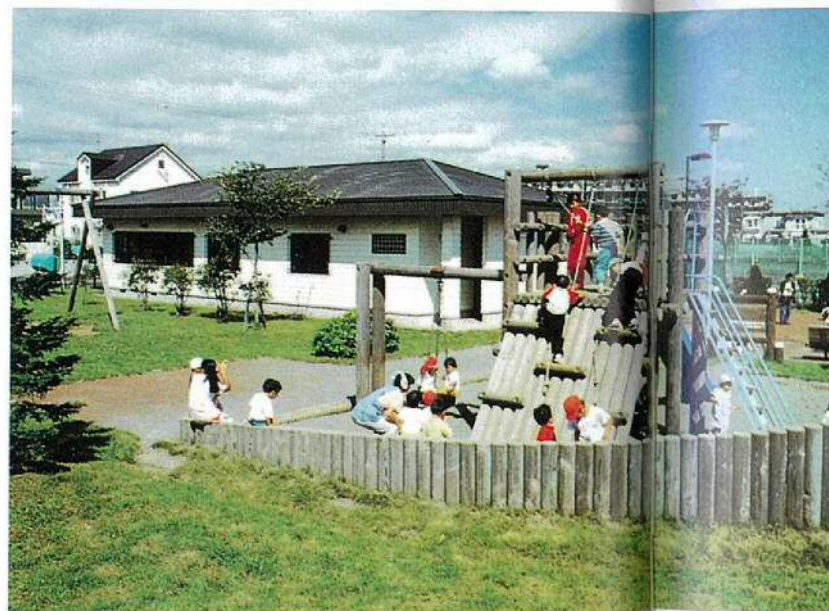
整備当時の利用状況



整備当時の利用状況



整備当時の利用状況



テビっ子たちの歓声が響く冒険広場。



公園内の樹木

エゾヤマザクラ、ソメイヨシノ、
ヤマモミジ、イタヤカエデ、アカエゾマツ、
ハルニレ、ナナカマドなどの高木が

約35種1800本

ツリバナ、エゾニワトコ、マユミ、ツツジ、
アジサイ、ムクゲなどの中低木が

約25種5000株



事例紹介

恵み野中央公園の再整備に向けて

北海道大学大学院農学研究院 愛甲哲也

- 官民連携 Park-PFI
- グリーンインフラ
- 防災
- インクルーシブ
- 冒険遊び場
- 居場所・サードスペース
- 協働型管理運営

都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会

2022.10.31 提言公表

○ 法改正から5年が経過し、より柔軟に都市公園を使いこなすための管理運営方策や、デジタル化の急速な進展、新型コロナを契機としたニューノーマル社会など、社会経済情勢の変化を踏まえた公園の新たな意義・役割への対応のため、「都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会」を設置し今後の取組の方向性を議論・検討。

ポストコロナの時代における人中心のまちづくりへの機運の高まり

<p>「居心地が良く歩きたくなる」まちづくりの取組の広がり</p> <ul style="list-style-type: none"> 官民のパブリック空間をウォークアブルな人中心の空間に転換し、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」を創出 多様な人々の出会い・交流を通じたイノベーションの創出や人間中心の豊かな生活を実現 	<p>地球環境問題の新たな潮流</p> <ul style="list-style-type: none"> 気象災害の更なる激甚化・頻発の予測(気候危機) カーボンニュートラル、流域治水の取組 自然を活用した解決(NbS)への注目 30by30に向けたOECMの検討 ワンヘルス・アプローチの提唱 	<p>人口減少、少子高齢化への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口減少・少子高齢化の更なる進行。特に、こどもを取り巻く状況の深刻化。 2050年には人口は約1億人まで減少し、高齢化率は37.7%に達する見込み さらにコロナ禍がこどもや若者、家庭に多大な影響。
<p>新型コロナの感染拡大を経たニューノーマル社会への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 働き方や暮らし方に対する意識や価値観の変化・多様化 屋外空間に対するニーズの高まり化 人間中心・市民目線のまちづくりの深化 機動的なまちづくりへの対応 	<p>市民・事業者の意識変化</p> <ul style="list-style-type: none"> CSR活動、ESG投資など企業の社会貢献活動が浸透 社会課題の解決に市民が参画する気運が醸成 地域に貢献したいと思う人の割合の増加 あらゆる分野での官民連携による社会課題の解決とそれに伴う新たな市場創造・成長 	<p>デジタル・トランスフォーメーションの進展</p> <ul style="list-style-type: none"> Well-beingやSustainabilityなどを実現する有効な手法として、デジタル技術の重要性が再認識 あらゆる政策領域でデジタル技術を活用した課題解決／新たな価値創出が進展



新たな時代における都市公園の意義・役割 ～公園本来の役割、多機能性・多様な可能性の再認識～

<p>持続可能な都市を支える グリーンインフラ</p>	<p>心豊かな生活を支える サードプレイス</p>	<p>人と人のリアルな交流、 イノベーションを生み出す場</p>	<p>社会課題解決に向けた 活動実践の場</p>	<p>機動的な まちづくりの核</p>
--	--------------------------------------	--------------------------------------	------------------------------	-------------------------

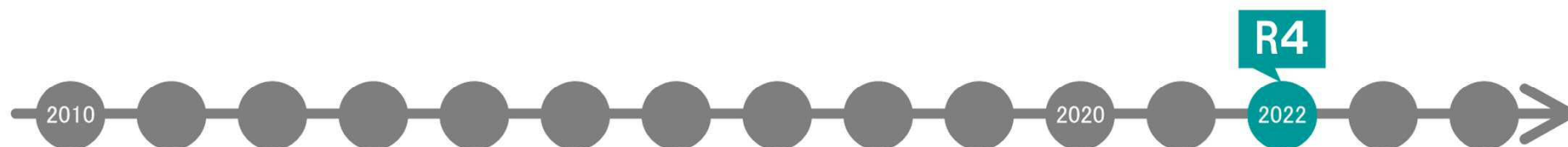


グリーンインフラ 札幌市の事例

雨水浸透緑化（雨水浸透型花壇）の取組概要

令和4年度の取組

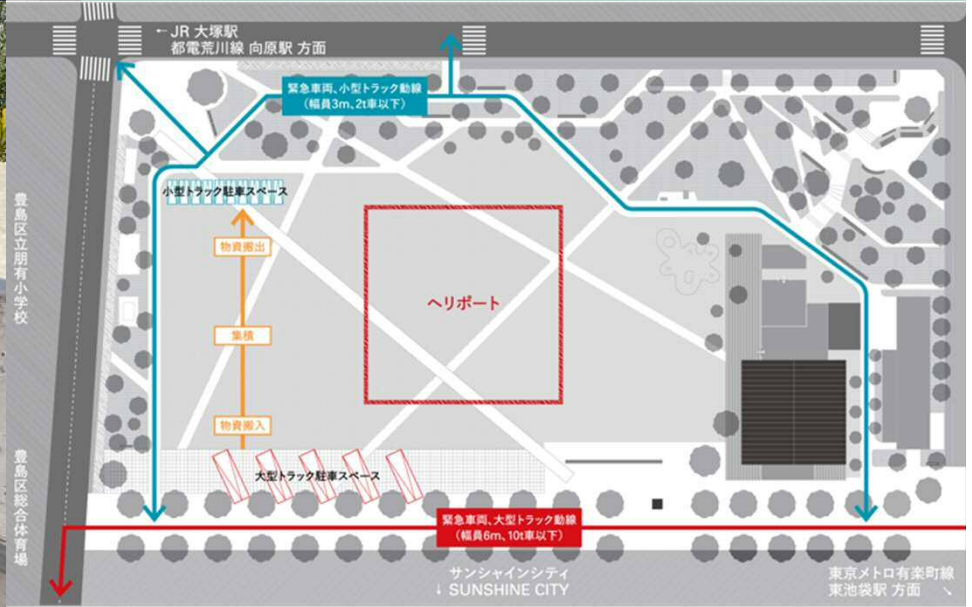
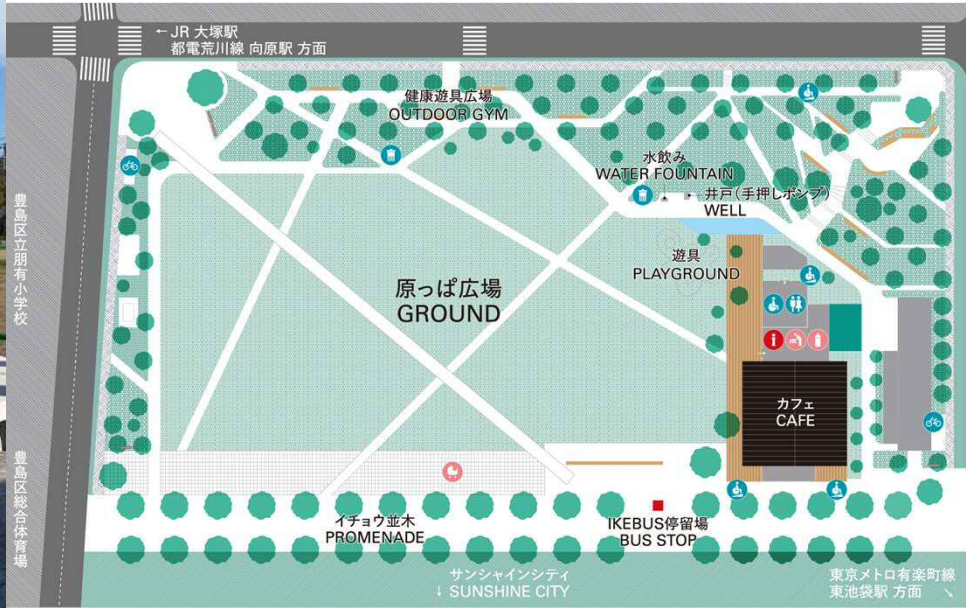
- 都心エリアに位置する大通公園に雨水浸透型花壇を整備し、地元協力企業と浸透量について定量的な効果検証を実施
- 地元大学と共同による雨水浸透緑化に適した導入植物の調査に着手



- 令和6年度の民間再開発への補助金の活用を見据え、「グリーンインフラ活用型都市構築支援事業計画」の策定に着手

雨水浸透型花壇の整備
(都心エリア：大通公園)







⑤ ツインサンドボウルテーブル この遊びは
3-12歳
までです

遊びのおやくそく

- ・上に登るとすべって落ちるかもしれません。登らない方がみんなで楽しく遊べるよ。
- ・混んでいるときはゆずりあってみんながおそるようになろう。

インクルーシブのポイント

①車椅子に乗ったままや、立ったままで砂遊びができます。
②体格に差がある子どもと一緒に遊べるよう、テーブルの高さを変えています。使いやすい高さの部分で遊んで下さい。

